

“寛永通宝” 松本銭座

<その歴史的経過と記念碑の概要>

松本市教育委員会

銅錢に至る事情

わが国の銅錢は、奈良時代の和銅開珎にはじまり、以後平安時代にかけて12回あつたので、これらを皇朝12銭といつた。

鎌倉時代以後全く銅錢はなく、もっぱら宋錢・明錢を多量に輸入して通用した。

戦国争乱の時代を経て、天正18年徳川秀吉の天下統一になると全国共通の錢貨を銅錢としたが実現しなかつた。

江戸時代となつて、三代将軍家光は、貨幣制度の完備をはかり、すでに改銅していた金貨（大判・小判）銀貨に加え、最も通用量の多い銅錢の銅造をはかつた。

この銅造は、江戸1か所では間に合わないため、松本をはじめ全国11か所で銅造。急速な全国流通を計画し、地方の有力大名を撰んでこれを命じた。

銅錢の実施

松本の城主（7万石）の松平出羽守直政は、徳川家康の孫で親藩である関係上特に選ばれ（或は希望によるか）て銅錢を命じられたのである。銅錢の事業には大きな施設と多額な費用がかかるため、その請元の選定には問題があつたが、松本町唯一の分限者で、問屋、大名主などを兼ねた倉科七郎左衛門と匹敵していた本町の使者宿をつとめる今井勘右衛門がえらばれ、実際の技術者として飯田町の三船忠兵衛にこのことを管掌させた。今井家所蔵の文書で本文書として信用のおける今井文書には（信濃資料第26巻所収）「勘右衛門の望みによつて二口（庄内・堀込の2箇所）の銅錢を命じ、この二口のほかは他の人が望んでも許可しないから精出してやるよう」といふ意味のことが書かれている。署名の者は松平家の家臣である。ところで日付が寛永13年12月27日となつてるので、実際には翌年の着手とみなければならないのである。そして施設準備も整い銅錢にかかつたのは翌年も半ばのことであろう。しかも寛永15年2月には、直政は出雲の松江18万6千石に増加されて転任したので、あるいはこれによつて中止したか、または幕府からその使命を達して禁止令の出た寛永18年をもつ

て中止したかは不明である。ただその期間の短かつたことは事実である。

考 証

銅工の三輪忠兵衛のことについては、本文書ではなく、今井家先代の書留めにあるのみでその伝を欠くが、伝承資料上からはこれを信じてよいであろう。

銅錢場は、考古学的発掘も不可能で確認できないが、權松家記録等によれば、本町5丁目の請元今井家の裏で銅錢用の銅塊を（足尾銅であろうか）持上げて力くらべしたことが書かれているが、一説に飯田町銅屋小路三輪忠兵衛工場との伝承がある。旧松本町全体とその付近を含めて昔は庄内といつた。堀米とは今の島立の堀米のことである。

松本銭について

世にいり松本銭については、今まで古銭研究家は、その種類を10数種に分類し、他の鉄座で分類できなかつたものを松本銭にあてたものと思われ全く信用を置けない。信すべきものとしては、今井家旧蔵になる記念の枝銘が残つているが、これはまぎれもない古寛永で（寛永通宝は銅錢の銘柄となり江戸末期まで何回も鋳造されているので、寛永年間に実際に鋳たものと区別されている）書体その他に往時の姿がしのばれるので、これが信すべきものであろう。なお、種類もそう多くないはずである。

建碑の銘形はその字形を模したが、大小の差で若干感じはちがつてきている。

松本鉄座の意義

松本鉄座の意義を領主側と一般民衆側の二つから考えてみる。松本に重要な銅錢の場ができたのは、松平直政が徳川の連枝であり、さうそうたる青年大名で、大いに松本の新領に理想郷をつくろうとした施策の一つとみることができる。直政は、人も知る越前福井120万石の大々名（但江戸初期）松平秀康（家康の次子で豊臣秀吉に愛されその養子となり、のち秀頼の出生により出て関東の名家結城をつぎ、江戸幕府成立後松平姓に復す）の三男で、寛永10年4月着任、松本城に月見櫓を造つたり、城内に六九軒を新築、筑摩神社本殿（現重要文化財）の修築をする等大いに城内外の整備につとめた。彼が鉄座の一つを管理させたこと、裏には然る可き利権もあつたことと思われる。彼は寛永15年2月10万石の加増転任の命を受け

ても、心中高はなかつたことが、資料の上でもみられる請元の今井氏は松本町問屋の倉科家と常に相对し問屋の増置を頼い出していたが、倉科氏の反対により許されなかつたが、この辺戦座の請負を許されてその地位を高めた。

なお、松本町や領内の経済にも種々の面でよい影響があつたことであろう。

記念碑の概要

- ◇ 題字 松本市長 降旗徳弥
- ◇ 撰文 松本市教育委員会
- ◇ 制作 上条俊介
- ◇ 石匠 吉本定昭
- ◇ 鋳造 和泉満清
- ◇ 建立 松本市

除幕 昭和43年11月6日

	高さ	巾	奥行	備考
碑石	1.98m	1.52m	0.53m	岐阜産花岡岩
台石	0.53m	1.98m	0.53m	*
額石	0.83m	0.83m	0.10m	アフリカ産黒石
ブロンズ	撰文 0.46m×0.26m 寛永通宝 直径 0.26m			
碑は古代中国の貨幣「布貨」をかたどつてある。				

(建碑位置 市内深志3丁目市民会館前庭)

松本銭座の記

越前大野5万石から信濃松本7万石に転じた松平出羽守直政は、寛永十三年幕府の命を受け、任地松本に銭座を設け、庄内、堀米の二箇所において寛永通宝を鋳た。

鋳銭は寛永十四年からとみられるが、同十五年二月に直政は出雲松江十八万石に転じ、同十八年には幕府から、地方銭の禁止令が出されているので、この期間に中止されたものと思われる。

鋳銭の清元は松本本町の今井勘右衛門で、鋳工は飯田町の三輪忠兵衛と伝えられている。

松本銭座は寛永年間に置かれた全国十一銭座の一つで、江戸に運かれた金座や銀座と共に、江戸幕府の貨幣制度を整えるために重要な役割を果した。

昭和43年10月

松本市教育委員会